

「国際総トン数」について

1. 昭和57年7月18日以降に起工された船舶又は同日以降に特定修繕を行った船舶

総トン数計算書謄本のJCD-2(2ページ目)の「法第4条第2項の規定の例により算定した数値(t)」欄に示された値が「国際総トン数」となります。

《総トン数計算書の例》

○表紙

JCD-1

総トン数計算書 (長さ24メートル以上・未満の船舶)					
新	種類	船舶番号	船籍港	船名	用途
改()	汽船	1234〇〇	東京都	第18〇〇丸	貨物船
船質		鋼	閉	閉囲場所の合計容積 <u>968.234</u>	
(中略)					
		深さ <u>7.50</u> メートル	所	その他の場所の容積 <u>0.000</u>	
総トン数				<u>200</u> トン	
(以下略)					

○2ページ目

JCD-2

NAME OF SHIP

汽船 第18〇〇丸

船舶番号 1234〇〇

総トン数		
閉囲場所の合計容積から除外場所の合計容積を控除した数値	V	<u>1211.310</u> m ³
規則第9条に定める係数	K ₁	
	$0.2+0.02\log_{10}V$	<u>0.2617</u>
法第4条第2項の規定の例により算定した数値	t	<u>316</u>
	K ₁ ・V	
規則第35条に定める係数	k ₁	
(以下略)		

2. 上記以外の船舶

引渡し後の登録国において新たに「国際総トン数」の算定を行う必要があります。